

フジワラテクノアートの DX 推進について

2023 年 5 月 10 日

株式会社フジワラテクノアート

代表取締役社長 藤原恵子

代表取締役副社長 藤原加奈

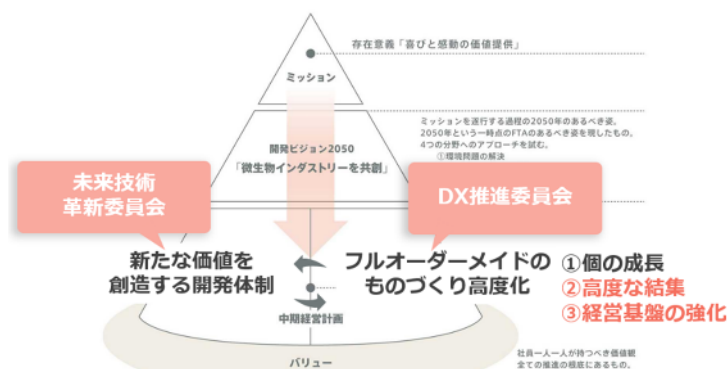
(1) 経営ビジョン及びデジタル技術活用の方角性

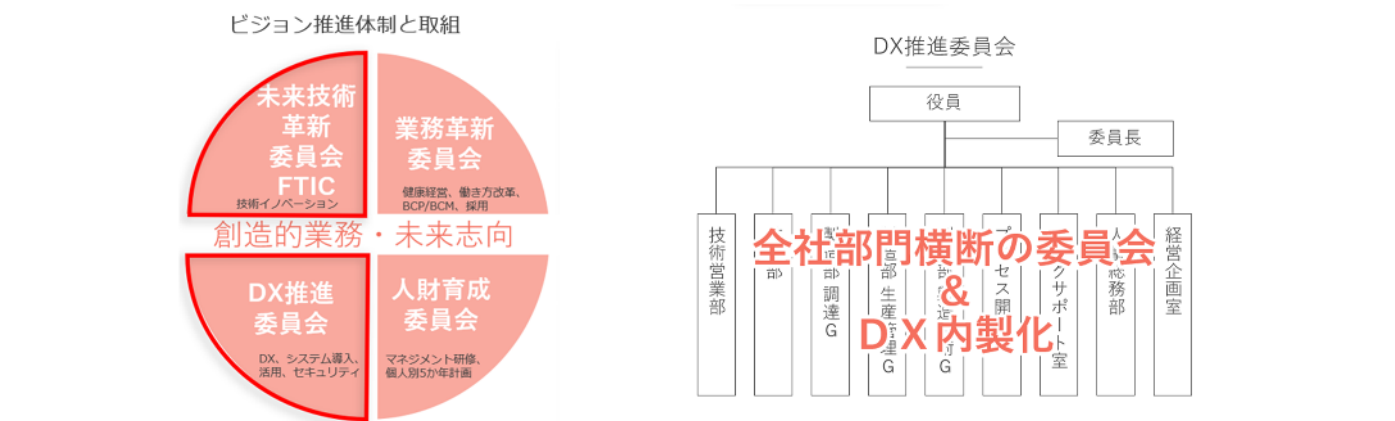
当社は醤油・味噌・日本酒・焼酎等の醸造食品を製造する機械・プラントメーカーであり、醸造業界では高いシェアを持ちますが、さらなる成長のため、2050 年の未来を見据えて、開発ビジョン 2050「醸造を原点に、世界で『微生物インダストリー』を共創する企業」を策定しました。「微生物インダストリー」とは、麹菌などの微生物の潜在能力を引き出して高度に応用利用する産業分野のことです。主力である醸造の他にも、食糧・飼料・エネルギー・バイオ素材などの分野が考えられ、世界が直面する食糧問題、人口問題、環境問題など数多くの課題解決に貢献できればと考えています。このビジョン達成のために、DX は必須であり、デジタル技術は重要な手段と位置づけています。



(2) 経営ビジョン及びデジタル技術活用の戦略

開発ビジョン 2050 実現のために、「新たな価値を創造する開発」と「フルオーダーメイドのものづくりの高度化」の2つの体制強化に向けて取組みを強化しています。醸造業界のみならず社会的課題の多様な要望に対応していかなければならず、そのためには各工程を更に効率化させ、新たな挑戦を行う時間や創造的業務に注力する時間を創出していかなければならないし、社員一人ひとりの経験を全社共有し組織として対応していかなければなりません。またデータの見える化や活用が今後の経営には欠かせないと認識しています。これらの課題を解決する重要な手段として、DX を位置づけています。自社にて、デジタル化推進計画を策定し、中期経営計画でも DX は重要な取組の一つと位置付け、コストではなく投資と認識し、全社で DX を推進しています。





(4) デジタル技術活用環境の整備に関する方策

DX推進委員会にて、外部に頼らず、まずは現状業務を図示し、あるべき姿に照らしてギャップを把握、課題を抽出して優先づけを行い、「デジタル化計画」を策定しました。将来の拡張性を見込み、各システムの連携や、極力カスタマイズせず業務をパッケージに合わせることを通して業務改善を行うことも視野に、目的を明確にして RFP（提案依頼書）を作成、基幹システム等の刷新に向けたシステム選定、導入を自社主導にて行いました。また、社員が実践や情報処理試験への挑戦を通してスキルを習得し、自社で各システムの運用と活用を検討まで行っています。また、サプライチェーンとの連携も重要と考え、従来は FAX・郵送等で行っていた仕入先様への発注についても、主要協会社様約 120 社に賛同いただき、オンラインに切り替え、大幅な生産性向上につながりました。あわせて協会社様に対する情報セキュリティセミナーなども実施しています。策定したデジタル化計画に基づき、岡山県からの補助金も活用して、2019 年からの 3 年間で、自社主導で 21 システム・ツールを導入、運用しています。

(5) 達成状況の指標について

策定したデジタル化計画に基づき、下記指標を設定しました。システム・ツール及びデータのさらなる活用を目指しています。

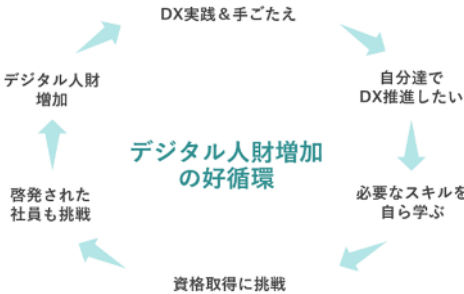
※【 】は成果

- ・業務プロセス改善、属人化解消、原価、進捗のリアルタイム可視化【→達成】
- ・調達業務効率化と紙 50%削減【→達成：月 400 時間工数削減と紙 90%削減】
- ・棚卸業務効率化 棚卸作業にかかる時間：2 週間→1 日程度に短縮【→達成：棚卸 1 回の時間 2 時間程度に、棚卸回数が年 1 回→年 6 回になり、在庫管理の精度向上】
- ・製品検査表、輸出用リスト作成時間 30%短縮【→達成】
- ・引合い案件及び案件進捗可視化【→達成：受注確度向上に向けた戦略立案等に向けさらなる活用検討中】
- ・図面検索時間の短縮【→達成：図面管理データベースにより効率化。技術文書等含めたナレッジマネジメントに向けてさらなる取組検討中】

- ・ RPA による月 30 時間程度の事務作業削減【→達成：月 50 時間以上の事務作業削減とミス削減、システム間連携（データ入出力等）にも活用中】
- ・ 社員の成長を支援し、多角的でより適正な評価につながる人財育成【→目標管理システムにより成長の履歴が可視化、さらなる活用検討中】
- ・ 杜氏の廻づくりをサポートし、酒造りの高度な技術伝承に貢献する AI システムを開発【→Python をゼロから学習し、開発に成功。販売に向けてテスト中】
- ・ サプライチェーンを含めたセキュリティ教育、協力体制構築等【→毎年情報セキュリティセミナー実施、重大セキュリティインシデントはゼロ】
- ・ 社内デジタル人財の育成【→DX を自社で推進する中で、社員が必要を感じ自主的に学習し、2018 年 1 人→2023 年のべ 21 人に増加、DX 内製化に成功】
- ・ DX への挑戦が持続的に行える体制と仕組みの構築【→DX 推進委員会で毎月活発な議論を実施。全社最適の観点が浸透し、新しい価値に向けた挑戦など社員のマインドセットが未来志向に変化。ボトムアップで DX 加速】

DXの主な成果

部門・対象	導入システム、実施事項	導入前	導入後成果
技術営業部	営業支援システム	・ 受注前案件は担当者にしか分からない ・ 受注・売上予測が困難	・ 受注前案件の見える化と上司の適切なアドバイス ・ 受注・売上予測、経営層向けダッシュボード
技術部（設計）	図面・技術文書管理システム	・ 技術部以外は、セキュリティのため図面データにアクセスできない ・ 図面検索に時間がかかる	・ セキュリティを確保して、全部門から図面データ参照や検索が可能に ・ 図面検索時間大幅短縮（特に他部門）
製造部 全社	生産管理システム	・ 原価、進捗が見えない ・ 作業指示が不明確、工数の増減が大きい	・ 原価、進捗が可視化され、全社で共有 ・ 作業指示書や目標工数による効率的な製造
調達Gr	生産管理システムと連携したオンライン発注プラットフォーム（主要仕入先：約120社）	・ 発注書発行、FAX、仕入先とのコミュニケーションミスによる手戻り ・ 届け現場で物品を探すのに膨大な時間	・ 月400時間の工数削減（調達関連） ・ 物品を探す時間が30％削減（現品票） ・ 発注書・FAX用紙90％削減
製造部	生産管理システムと連携したRFIDによる在庫管理システム	・ 在庫管理が困難 ・ 棚卸：年1回、1週間	・ メンテナンス交換用部品の納期20％短縮 ・ 棚卸：年6回、1回2時間
製造部	タブレット型製品検査システム	・ 輸出用リスト、検査表の作成に膨大な時間	・ 作成時間30％削減
開発部門	Python、データ分析手法習得	-	・ 杜氏をサポートするAIシステムを自社開発
人事総務部	目標管理システム 人財管理システム 会計システム 労務管理システム	・ Excel管理で、評価者の負担が大きい ・ 各人の成長が経年で見づらい	・ 評価者の負担軽減 ・ 各人の成長の履歴が見え、多角的でより適正な評価に
全社	RPA	・ 大量の事務作業と人為的ミス	・ 月30時間以上の作業時間削減、ミス削減
全社 協力会社	情報セキュリティ対策（ポリシー策定、セキュリティ講習、対策ツール）	・ 場当たり的なセキュリティ対策 ・ データ活用不十分 ・ 協力会社とのセキュリティ協力体制がない	・ 統一されたセキュリティ対策と社員のセキュリティ意識向上 ・ セキュリティを確保したデータ活用 ・ 協力会社からの信頼向上とセキュリティ協力体制構築
DX推進体制	DX	・ 各部署ごとの個別最適 ・ トップダウンでDX推進委員会設置	・ 全社最適の観点が浸透 ・ DXへの挑戦が持続的に行える体制と仕組み、開かれた会議に進化し、ボトムアップでDX加速



(6) サイバーセキュリティに関する対策

社内に情報セキュリティ委員会を設置し、情報セキュリティポリシーを作成、セキュリティアクション（二つ星）を宣言いたしました。また、DX 推進委員長の社員が情報処理安全確保支援士の資格を取得し、社内および協力会社様とも情報セキュリティに関する勉強会を開催し、ランサムウェア等の脅威に関する注意喚起を随時行い、遠隔バックアップを行うなどセキュリティ対策を実施しています。

- ・ 重大な情報セキュリティインシデント事例：ゼロ
- ・ 年 1 回以上の全社員対象情報セキュリティ教育
- ・ 協力会社様向け情報セキュリティセミナー
- ・ バックアップの仕組み構築



(7) その他

当社の DX 取組について、ビジョンと DX が連動していること、創業 90 年と歴史がありながら外部に頼らず自社にて、そして全社で DX 推進していること、3 年間で 21 システム・ツール導入のスピード感などが評価され、下記の賞を受賞いたしました。

- ・ 2020 年 11 月 おかやま IT 経営力大賞 「大賞」受賞

https://www.optic.or.jp/sei/okayama_it/r02/ceremony.html

- ・ 2022 年 6 月 日本 DX 大賞 中小規模法人部門 「大賞」受賞

<https://dx-awards.jp/2022>

<https://www.keikakuhiroba.net/jirei/fujiwara-techno-art/>

- ・ 2023 年 3 月 経済産業省 DX セレクション 2023「グランプリ」受賞

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dx-selection/dx-selection.htm



当社は開発ビジョン 2050「微生物インダストリーの共創」に向けて多様な共創パートナーと共に新しい価値を創造し、様々な社会課題の解決に貢献する会社、「喜びと感動の価値」を提供する会社を目指します。そのために、価値の源泉である社員の経験や知識を組織の力にするナレッジマネジメントや、サプライチェーンも巻き込んだデータを活用した製品・サービスの品質向上への取組み、データに基づく判断などを目指し、さらに DX を推進していきます。